

名戸ヶ谷ビオトープだより

第26号

2007年8月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

今年の田んぼは変だぞ



名戸小児童と水田の草取り

6月22日(金)、名戸ヶ谷小学校児童と水田の草取りをしました。田んぼは過去に例を見ない状況でした。一面に繁茂した「コナギ、ウリカワ」に稲が肩身の狭い姿でした。全員で手分けして雑草退治に取り掛かりましたが、思いのほか手ごわい相手です。

雑草は児童の手に余る生命力で繁茂しており、その表面

は千切っても根元からは抜くことができず、根はそのまま残ります。根元の部分を完全に抜かないと効果がないことを全員に周知徹底しましたが、これは児童には難しい作業であることと、途中で雨が降り出したこともあって、中途半端な状況で雑草とり作業は中止となりました。今年の失敗は来年の雑草取りには早目の手当てが必要との反省材料となりました。(窪田孝志)



雑草に負けました



雑草退治後はこんなにすっきり！

3回目の草取りを7月22日に終了しましたが、もう穂が出ています。残念ながら今年の収穫量は期待できません。毎週の草取り、お疲れさまでした。少ない実りの稲にもう雀が来ています。

(小笠原 智)

今年の稲作りは水草(コナギ)に負けてしまいました。稲が根付き分割する前に雑草の勢力が上回り、稲の成長が止められてしまいました。コナギは除草剤を散布しない水田にのみ生育するようです。これは昔から見られ、和歌にも詠まれています。名戸ヶ谷小学校児童による草取りはイベントと位置づけ、来年からは先手、先手で草取りを実施しなくてはなりませんね。



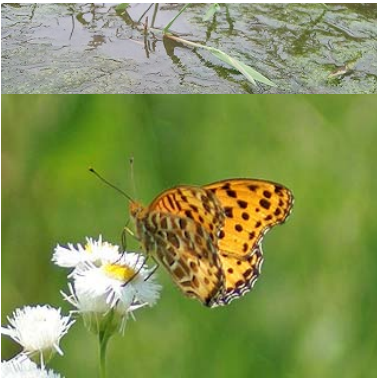
夏の生きもの観察会

日時：8月10日（金） 10：00～12：00

集合：ビオトープ看板前

内容：水の中や地上の生きものたち、植物を観察します

ビオトープの生きものを一部紹介します



ニホンアカガエル
シュレーゲルアオガエル
ニホンアマガエル



ツマグロヒョウモン
ササグモ

ナミホシテントウ

アオサギ
チュウサギとカルガモ
コガネグモ



ビオトープにホタルを夢みて

ホタル遮光ネット設置

6月16日(土)。Aゾーンのホタル成育場所に遮光ネット設置作業を行いました。作業は2班に分かれ、1班は鉄パイプ枠の組み立て設置(これは優れたプロの技術と力を要します)、もう一つの班は組み立てられたパイプ枠に遮光ネットを張る手作業ですが、これも意外と根気の要る作業です。ネットの形状は昨年同様、「コ」の字型で、北側が開けてあります。作業は順調に進み、特別の事故もなく約3時間で無事終了しました。

出来上がってみると、短時間でよく出来上がったなあ、という思いと、作業メンバーのチームワークの良さに感心しきり。あとはせめて一匹でも多くの蛍にお目にかかることを期待するばかりです。(伊藤武夫)



夢を捨てない男たち

ヘイケボタル&名戸ヶ谷ビオトープ —ホタルあれこれ

何故遮光ネット？

ホタルの繁殖に暗闇は不可欠です。ホタルの発光は闇の中で雄雌がコミュニケーションをとるためのシグナルで、成虫が出始める頃に黒い遮光ネットを張るのもこのためです。ビオトープ周辺もホタルが乱舞した昔と比べて開発が進んだ結果、夜でもすっかり明るくなり、ホタルには最悪の環境となりました。

ホタルの餌 — 孵化から成虫へ

ヘイケボタルが成虫になるのは6月～8月で、成虫として生きる期間は約10日～2週間ほどです。オスとメスは光で交信しながら相手を見つけ、水際のコケなどに産卵します。タマゴの大きさは0.5mmくらい。約2週間で孵化します。幼虫はサカマキガイ(写真右)など水中の貝類を食べて育ちます。ゲンジボタルが食べるのはカニナという貝類だけですが、ヘイケボタルは雑食性である上、名戸ヶ谷ビオトープの田んぼにはサカマキガイが沢山いるので、餌に困ることはありません。



幼虫から蛹へ —幼虫の上陸は4～5月

上陸した幼虫は水際の土の中で蛹になります。一年で蛹になるものもいれば、2年間も幼虫のままで過ごすものもあります。食べ物の量など環境要因に因ると思われます。

名戸ヶ谷ビオトープにホタルは？

現在のビオトープには自然に繁殖するヘイケボタルはいません。ここ2年間に亘って同系である手賀沼流域のヘイケボタルから採卵し、その幼虫を育ててホタルエリアに放流して観察を続けています。

(松清智洋)

中原自然観察の森でのホタル観察会に参加して

中原小学校裏手の森にヘイケボタルの棲息地があります。「柏ホタルの会」が中心でこのホタルの保全に取り組んでいますが、昨年一般に開放してホタル観察会を行っています。今年も7月7日～16日の一般公開期間には、親子連れの見学者も多く、この間に1,500人ほどの来場者がありました。ピーク時間帯には50匹ほどのホタルの飛翔が見られ、「柏でホタルが見られるとは思っていなかった。子どもの時以来で感激した」などの声が寄せられました。中原小学校では昨年からホタルの飼育にも取り組んでおり、地域ぐるみでホタルを守っていこうという動きが盛り上がっています。(高田昭治)



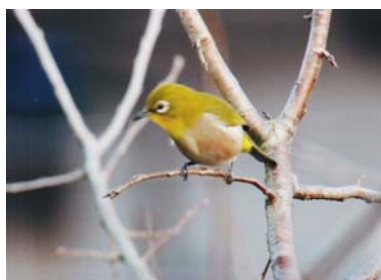
ビオトープの生きもの

ツバメ ツバメ科



日本へ夏鳥として渡来し、全国で見られるが北海道は南部に限られる。巣は地上に降りて集めたドロと枯れ草を材料につくられ、椀型をしている。写真はビオトープで田植えの日に、代掻きをしたやわらかい水田の土を、巣作りのために口に咥えて運ぶところである。何度も同じ動作を繰り返していた。巣作りの時以外は水田に降りることは少ない。千葉県では4月から10月まで観察することが出来る。尾の先が深く二つに割れ、「燕尾服」の名はここから付けられた。裂けた尾は空中で急旋回して昆虫を捕らえるのに適し、佐々木小次郎の剣法「燕返し」はそれについていけるほど早かったという。人家に巣をつくり幸せを呼ぶ鳥として親しまれてきたが、今は激減し、千葉県では一般保護生物になってしまった。

メジロ メジロ科



目の周りが白いのでメジロと言われるが、よく見ると視力検査のマークのように一箇所欠けている。日本全国に留鳥として見られるが、北日本には少ない。小枝から小枝に活発に移動しながら、葉の茂みの中のクモや昆虫を捕らえて食べる。秋から冬は木の実も食べ、花の蜜も吸う。秋から冬にかけては10～30羽くらいが群れで行動する。小枝に接して並ぶ姿から「めじろ押し」という言葉が生まれた。鳴き声は繁殖時に「テイテイチュテーテーテー」などと鳴き、早口で高調子である。この囀りを「長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛」とか「千代田の城は千代、八千代」などと聞きなしている。地鳴きは「テー」という声。木村邸や東武バス駐車場に隣接した木立の中で見られる。（篠崎 将）

合同作業日の報告

6月と7月の草刈り・清掃作業は延べ17名の会員が参加しました。ビオトープの西側ゾーンは木道の新設によって今年からゾーンを周遊できるようになりました。その周遊路が夏草に覆われてきたため、その草刈を行いました。また、魚釣り場には子どもたちの魚釣りの邪魔になるほどにガマが生えてきましたので、これも刈り取りました。まもなく夏休みです。子どもたちが元気に周遊路を走り回り、魚釣りを楽しんでいる姿を思い浮かべながらの作業でした。（佐々木 光正）



手賀沼流域フォーラムに展示で参加

7月28日(土) 10:00～15:00. 手賀沼親水広場でのフォーラムに名戸ヶ谷ビオトープを育てる会は展示で参加し、3枚のパネルでビオトープの日頃の活動を紹介しました。今年はポスター『よみがえれ！美しい手賀沼』の絵もすばらしく、大勢の子ども連れの親子が夏祭り気分でさまざまな屋内・外の企画を楽しむ姿が目立ちました。（広報担当）



編集後記

恐るべし、水田雑草。雨続きのため草取り作業を延期している僅か数日の間に、逞しい生命力で除去したばかりの田んぼに再び雑草が繁茂し、我々を打ちのめす。自然の掟の厳しさであろうか。今年もビオトープにホタルの姿が見られなかったため、中原小学校裏でのホタル観察会の様子を「柏ホタルの会」会員でもある高田さんから寄せていただきました。（広報担当 春山）